

2019 年度人文学類卒業者アンケート結果について

2019 年度人文学類 FD 委員会

2019 年度人文学類 FD 委員会では、2019 年度に実施された卒業者アンケートの結果を公開いたしますとともに、問題点や課題を明らかにすることで、人文学類における今後の教育改善に向けて役立てていただきたいと思います。

アンケート実施時期：2020 年 3 月 22 日～31 日

対象学生数：人文学類 2019 年度卒業予定者 144 人

回答者数：23 名（回答率 16%）

今年度の人文学類卒業者アンケートは新型コロナウィルスの影響により学類の祝賀会および学位記伝達式も中止となり、学生が集まることが難しい状況のもとで実施されたため、例年以上に回答者が少なくなってしまった。そのため、例年はコースごとにアンケート結果を集計していたが、2019 年度については回答者ゼロのコースもあり、また個々の設問の回答数もきわめて少ないとから、学類としての総計データに基づいて分析をおこなった。

その結果、以下の表に示すよう全設問の合計値では 8 割を超える卒業者が「1. そう思う」もし

表 2019 年度卒業者アンケート結果

設問	回答	1. そう思う	2. ややそう思う	3. あまりそう思わない	4. そう思わない	5. どちらとも言えない	高評価率 (1・2 の割合)
Q1 幅広い教養や社会的常識を身につけることができた	9	13	0	1	0	95.7%	
Q2 今後の活動に必要な専門知識や技術の基礎を身につけることができた	7	11	4	1	0	78.3%	
Q3 自ら課題を発見し解決する能力を身につけることができた	5	12	5	0	1	73.9%	
Q4 様々な状況に対応するコミュニケーション能力を磨くことができた	6	12	3	2	0	78.3%	
Q5 プレゼンテーションの能力を磨くことができた	6	9	7	1	0	65.2%	
Q6 異文化に関する理解力を高め、異なる視点から諸事象を把握する能力を身につけることができた	11	8	4	0	0	82.6%	
Q7 人間や社会のあり方を論理的に理解する能力を身につけることができた	5	14	3	0	1	82.6%	
Q8 人間や社会の諸問題を、歴史的背景をふまえて把握する能力を身につけることができた	5	11	5	2	0	69.6%	
Q9 文献や文学作品の読解力を高め、ことばに対する感性を養うことができた	11	8	2	0	1	86.4%	
Q10 全体として、金沢大学人文学類で学んだことに満足している	16	6	0	0	1	95.7%	
合計	81	104	33	7	4	80.8%	

くは「2. ややそう思う」の高評価の回答をしていたが、詳細に見るといいくつかの設問において高評価の割合が7割を下回るものも見られた。その1つが、「Q5 プレゼンテーションの能力を磨くことができた」(65.2%)である。この点は昨年度の卒業生アンケートにおいても同様の問題点を指摘したが、まだ十分に改善されているとはいがたい。講義系科目でプレゼンテーション能力を涵養することには限界があると思われるが、演習科目においてよりプレゼン能力を高める発表方法を取り入れるなどの工夫が必要であると思われる。また、昨年度には見られなかった結果として、「Q8 人間や社会の諸問題を、歴史的背景をふまえて把握する能力を身につけることができた」(69.6%)の高評価割合が7割に届かなかったことは残念である。GS科目や人文学基盤科目などの基礎的な科目に加えて専門科目においても可能な範囲で歴史的視点を意識した授業を心がける必要があると思われる。

以上、2019年度の卒業者アンケート結果の分析を行なったが、冒頭で述べたように今回は新型コロナウィルスの影響により十分な回答者数を得られなかった。アンケート調査の信頼性を高めるためにも、次回以降の調査においては回答者数を増やすことが求められる。